

平成 28 年度 大竹市地域公共交通活性化協議会 事業経過報告

1 概 要

本協議会は、市域における住民生活に必要なバスなどの旅客輸送の確保並びにその他旅客の利便の増進を図り、地域の実情に即した輸送サービスの実現を目的とし、市民・事業者・関連行政機関などが協議及び連携する場として、平成 20 年 3 月 25 日に発足した。

平成 21 年 3 月には、基礎調査、アンケート調査、住民ワークショップなどを実施し、これからの公共交通施策の根幹ともいえるべき「大竹市地域公共交通総合連携計画」を策定し、市民のための持続可能な公共交通体系の構築を目指し、各種事業に取り組んできた。

平成 26 年 3 月には、これまで進めてきた公共交通づくりに資する基本方針を踏襲するとともに、引き続き持続可能な公共交通体系を構築するために「第 2 期大竹市地域公共交通総合連携計画」を策定した。

2 平成 28 年度の事業内容

(1) 活性化協議会の開催

地域の実情に即した輸送サービスについて審議して決定するために本協議会を 2 回開催した。

	開催日	出席者	傍聴者	主な審議内容
第 1 回	6 月 10 日	16 人	6 人	○平成 27 年度事業経過報告・会計収支決算報告 ○平成 28 年度事業計画（案）・会計収支予算（案） ○こいこいバスの事業計画の変更について ○大竹・栗谷線バスの事業計画の変更について ○坂上線バスの事業計画の変更について
第 2 回	2 月 17 日	17 人	5 人	○坂上線バスの事業計画の変更について

【事業費（2 回分）】 報償費：115,000 円（@5,000 円×23 人） 食糧費：4,070 円

(2) 幹線交通検討分科会の開催

恵川橋橋りょう修繕工事に伴うこいこいバスの運行ルートの変更（迂回路の設定）、こいこいバス利用者アンケート調査（以下「アンケート調査」という。）の実施などについて協議するために本分科会を 2 回開催した。

こいこいバスの運行ルートの変更については、平成 28 年度から工事を実施することとなったために迂回路を検討し、工事期間終了予定の平成 30 年 3 月末までは玖波駅西口に停車することを決定した。なお、平成 30 年 4 月からの運行ルートはアンケート調査の結果を判断材料として検討することとした。

アンケート調査については、実施概要及び調査項目などを審議して決定した。

幹線交通検討分科会委員の募集については、こいこいバスの利用者が委員になることが望ましいことから、アンケート調査により委員を募集することとした。

	開催日	出席者	主な協議内容
第1回	5月23日	4人	○こいこいバスの運行ルートについて ○こいこいバス利用者アンケートについて ○幹線交通検討分科会委員の募集について
第2回	1月19日	4人	○恵川橋修繕工事終了後のこいこいバスの運行ルートの変更について

【事業費】 食糧費：1,320円

(3) こいこいバスの運行

平成21年10月から実証運行を開始し、平成24年4月に本格運行へ移行した。

平成28年度は、利用者が順調に増加し、年間利用者数(146,630人)、月間利用者数(8月：13,466人)、1日の利用者数(10月7日(金)：587人)、収支率(108.76%、広告収入・販売収入含む)が過去最高を更新した。

また、11月には「バスエコファミリーキャンペーン」を実施した。

【受託者】	(有)大竹交通、(有)大竹タクシー		
【運行期間】	平成28年4月1日～平成29年3月31日		
【運行区間】	JR大竹駅～JR玖波駅(全長：8.0km、停留所：19か所)		
【運行日数】	毎日運行(平日：246日、土日祝日：119日、計：365日)		
【運行便数】	平日：34便、土日祝日：32便		
【利用者数】	146,630人 ※平均値：401.7人/日、12.05人/便		
【運行経費】	27,936,568円 ※2台運行		
【事業収入】	30,383,824円(収支率：108.76%)		
	{ 運賃収入：16,490,348円 販売収入：13,626,500円(事務局販売) 広告収入：228,096円(ベンチ) 広告収入：38,880円(車内) }		
【補助金額】		0円	
【関連事業費】		バスエコファミリー補てん：11,200円	
		回数券等印刷：38,880円	回数券払戻：1,200円
	ドライブレコーダー購入：257,216円		

(4) 三ツ石地区乗合タクシーの運行

平成 21 年 10 月から実証運行を開始し、平成 24 年 4 月に本格運行へ移行した。
最も利用者数が多かった平成 23 年度以降、利用者が減少傾向にあるものの、運行
及び運営状況は他の乗合タクシーと比べて最もよい。

前年度と比べると利用者数が 185 人増加しており、1 台当たりの利用者数も増加
し、収支率は微減している。

【受託者】	南大竹交通
【運行期間】	平成 28 年 4 月 1 日 ~ 平成 29 年 3 月 31 日
【運行区間】	三ツ石地区 ~ ゆめタウン大竹または市役所
【運行日数】	155 日 (毎週月・火・金曜日運行) ※1/1~1/3 運休
【運行便数】	11 便/日 (行き 5 便, 帰り 6 便)
【利用者数】	1,444 人 (785 台) ※平均値 : 1.84 人/台
【運行経費】	847,800 円 @1,080 円×785 台
【運賃収入】	328,176 円 (収支率 : 38.71%)
【補助金額】	519,624 円

(5) ひまわりタクシーの実証運行

平成 23 年 7 月から玖波 7 丁目で実証運行を開始し、平成 24 年 1 月には運行区域
に玖波 8 丁目を編入した。

玖波 8 丁目の編入以降、利用者が増加傾向にあったが、平成 27 年度以降は減少傾
向にあり、平成 28 年度も利用者数及び収支率が前年度を下回った。

【受託者】	南大竹交通
【運行期間】	平成 28 年 4 月 1 日 ~ 平成 29 年 3 月 31 日
【運行区間】	玖波 7・8 丁目 ~ JR 玖波駅または広島西医療センター
【運行日数】	155 日 (毎週月・火・金曜日運行) ※1/1~1/3 運休
【運行便数】	11 便/日 (行き 5 便, 帰り 6 便)
【利用者数】	817 人 (563 台) ※平均値 : 1.45 人/台
【運行経費】	575,460 円 @900 円×181 台+@1,080 円×382 台
【運賃収入】	172,173 円 (収支率 : 29.92%)
【補助金額】	403,287 円

(6) 湯舟のりあいタクシーの実証運行

平成24年1月から実証運行を開始した。

平成25年9月と平成26年12月に運行内容を変更し、徐々に利用者が増加していたが、更に利用状況を改善するために地区住民の意見をとりまとめ、平成28年2月に運行内容を変更した。

変更前と比べると、平成28年度は利用者数及び収支率が大きく改善している。

【受託者】	㈲大竹交通
【運行期間】	平成28年4月1日～平成29年3月31日
【運行区間】	湯舟地区～広島西医療センターまたはゆめタウン大竹
【運行日数】	156日(毎週火・水・金曜日運行) ※1/1～1/3運休
【運行便数】	10便/日(行き5便, 帰り5便)
【利用者数】	713人(414台) ※平均値: 1.72人/台
【運行経費】	447,120円
【運賃収入】	162,040円 (収支率: 36.24%)
【補助金額】	285,080円

(7) 栄ぐるりんバスの実証運行

平成24年2月から実証運行を開始した。支線交通としては、唯一の定時定路線型バスを運行している。

平成25年9月と平成27年4月に運行内容を変更したが、利用状況が改善しないために平成28年2月に運行内容を変更(運行日を削減)した。

変更前と比べると、平成28年度は、前年度に比べ収支率は微減で推移している。

【受託者】	㈲大竹タクシー
【運行期間】	平成28年4月1日～平成29年3月31日
【運行区間】	JR大竹駅～栄地区巡回～JR大竹駅 全長: 8.2km, 停留所: 25か所
【運行日数】	246日(月～金曜日運行(休日除く))
【運行便数】	14便/日(青ルート8便, 赤ルート6便)
【利用者数】	4,323人 ※平均値: 17.57人/日 1.26人/便
【運行経費】	8,444,400円
【事業収入】	851,580円 (収支率: 10.08%) (運賃収入: 780,300円 広告収入(車外): 71,280円)
【補助金額】	7,592,820円
【関連事業費】	ドライブレコーダー購入: 64,300円

(8) その他, 新たな支線交通の検討

平成28年度中に御園台地区から要望があり, 乗合タクシーでの運行を検討している。

(9) 大竹・栗谷線の見直し

平成26年1月22日に開催した「大竹・栗谷線バスについて考える座談会」での意見や要望などについて, 改善策を検討し, 松ヶ原地区(10月28日, 11月30日)及び栗谷地区(12月1日)で座談会を開催した。より利用しやすいバスにするため,

運行内容を平成28年4月から運行内容を変更するとともに、利用状況を把握するため、平成28年11月20日から12月20日の乗降調査を実施した。

【関連事業費】 ドライブレコーダー購入：64,300円

(10) 坂上線の見直し

美和中学校に通学する生徒の利便性を向上させるため、平成28年4月から下り(大竹駅⇒鮎谷)第1便の終点を美和総合支所に変更(バス停の新設)した。

国道186号交差点工事に伴い、迂回路での運行を実施している。

また、一部バス停の毀損などに伴い、バス停標識を取り替えた。

【関連事業費】 バス停標識取替：105,408円 (結節点整備費)
ドライブレコーダー購入：64,300円

(11) 広報紙による啓発記事掲載

「広報おおたけ」(以下「市広報」という。)に公共交通や協議会の取り組みに関する記事を毎月掲載し、市民への情報提供及び啓発を実施した。

【事業費】 印刷製本費：376,844円 @1.57円×17.5ページ×12,700部+消費税

(12) バスエコファミリーキャンペーンについて

土日祝日の利用を促進するとともに、*モビリティ・マネジメントの一環として、こいこいバスについては、11月の土日祝日に限り、大人に同伴する小学生を無料とするキャンペーンを実施した。(平成23年度以降実施、利用者の増加に伴い、平成28年度から大人1人につき小学生2人を無料とする運用とした。)

※ モビリティ・マネジメント：マイカーに過度に依存した生活から、適度に賢く公共交通を活用する暮らしへ、ライフスタイルや意識の転換を促進する働きかけのこと。

【事業費】 小学生分補てん：11,200円(112人分) 《再掲》

【利用実績】 平成23年度：29人、平成24年度：57人、平成25年度：71人、平成26年度：50人
平成27年度：125人、平成28年度112人

(13) 広告の募集について

こいこいバスと栄ぐるりんバスの収入を確保するため、市広報9月号及び1月号にこいこいバス(ベンチ広告、車内広告)と栄ぐるりんバス(車外広告、車内広告、停留所標識広告)の広告募集記事を掲載した。

【平成28年度広告料収入】 《再掲》

こいこいバス：1社、228,096円 (ベンチ広告22か所(44枠)分)

こいこいバス：2社、38,880円 (車内広告12か月×2台分、3か月×2台分)

栄ぐるりんバス：2社、71,280円 (車外広告12か月×3枠分、6か月×3枠分)

(14) 本格運行への移行を判断する基準の検討

実証運行中の支線交通（ひまわりタクシー、湯舟のりあいタクシー、栄ぐるりんバス）の各運行委員会において、「どの程度の利用状況であれば本格運行への移行について市民の理解が得られるか」という視点で「本格運行への移行を判断する基準」を検討した。

湯舟のりあいタクシーについては、運行委員会で「基準」を「利用者数 60 人/月、収支率 35%」とすることが決定し、平成 27 年 12 月 22 日に開催された活性化協議会で報告し、承認された。

ひまわりタクシー、栄ぐるりんバスについては、平成 29 年度第 1 回開催の地域公共交通活性化協議会までに目標を定めることとした。

(15) 大竹市地域公共交通総合連携計画事業推進業務

総合連携計画の計画事業をより円滑かつ効果的に実施するため、専門的知識及びノウハウを有するコンサルタントに業務を委託した。

<p>【受託者】 株式会社地域未来研究所中国四国事務所</p> <p>【業務名】 平成 28 年度大竹市地域公共交通総合連携計画事業推進業務</p> <p>【履行期間】 平成 28 年 7 月 14 日 ~ 平成 29 年 3 月 28 日</p> <p>【業務内容】</p> <ul style="list-style-type: none">◇ 本格運行路線の検証<ul style="list-style-type: none">・こいこいバス及び三ツ石地区乗合タクシーの利用状況の検証・こいこいバス利用者実態把握アンケート調査の制度設計、アンケート調査の実施及び調査結果の整理◇ 実証運行路線の検証<ul style="list-style-type: none">・ひまわりタクシー、湯舟のりあいタクシー、栄ぐるりんバスの利用状況の検証◇ 大竹・栗谷線及び坂上線の検証<ul style="list-style-type: none">・大竹・栗谷線及び坂上線の利用状況の検証◇ モビリティ・マネジメントの実施支援<ul style="list-style-type: none">・こいこいバス利用促進及びルート変更の周知ツールで配付したポケットティッシュのカバーデザイン作成、製作・広報紙への掲載記事作成支援◇ 幹線交通検討分科会委員候補者に対する資料作成支援<ul style="list-style-type: none">・幹線交通検討分科会の委員候補者に対して、検討会の内容や委員の担うべき役割等についての説明するための資料作成の支援 <p>【事業費】 2,000,000 円</p>

3 大竹市公共交通活性化基金の活用

平成23年度に米軍再編に伴う防衛省の再編交付金を活用し、公共交通活性化基金を造成した。平成24年度以降、こいこいバスと支線交通の計5路線を対象とし、運営経費の財源として活用している。

なお、平成27年度に94,558,000円を積み増した。

【基金名】	大竹市公共交通活性化基金	※()は、積み増し後の数値。
【造成日】	平成24年3月29日(平成28年3月31日)	
【基金額】	105,000,000円(199,558,000円)	
【再編交付金額】	102,585,000円(197,143,000円)	
【事業年度】	平成24年度～平成28年度(平成24年度～平成37年度)	
【繰出金】	平成24年度：14,236,447円	
	平成25年度：16,037,693円	こいこいバス：-2,447,256円 三ツ石地区乗合タクシー：519,624円 ひまわりタクシー：403,287円 湯舟のりあいタクシー：285,080円 栄ぐるりんバス：5,382,000円 (こいこいバス黒字分で他の支線交通の赤字分を補てん)
	平成26年度：16,973,885円	
	平成27年度：12,132,868円	
	平成28年度：4,142,735円	
	(予定)	
【基金残高】	141,782,336円(平成29年3月31日現在)	